

令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立藤戸台小学校
校長氏名	辻本 和孝
作成日	令和8年3月6日

1 教育目標

自分の成長を感じる子供の育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学調、県学習到達度調査で正答率が全国や県平均を上回る ・基礎学力の定着に係る評価(90%) ・わかりやすい授業、子供主体の授業の実践(児童・保護者90%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと感じる(95%) ・情報モラルに関する研修が実施できたか ・いじめをなくす学校・学級づくりに係る取組(90%) ・いじめの解消率(100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ごはんの実行(児童質問調査90%) ・挨拶ができる(児童80%) ・安全確保・健康管理(保護者90%) ・キッズ・サポートの実施 ・栄養教諭による食に関する指導訪問の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の伝達(保護者85%) ・家庭・地域との連携・協力(保護者85%) ・ホームページの更新を年間35回以上行う ・和歌山大学の見学や教育ボランティア・教育実習の受け入れができたか
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ◎主体的・協動的に学ぶ授業 ◎探究的・問題解決的な学習 ◎基礎基本の確かな学力の定着 ◎家庭学習の定着・読書の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳教育・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見・解決 ◎一人一人を大切にす学級づくり・仲間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎防災・安全教育の充実 ◎「食」に関する教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者・地域との連携充実 ◎地域教材・地域の人材の更なる活用 ◎保幼小の接続、小小・小中の連携
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ○「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を徹底させた授業に取り組んだ ○総合的な学習の時間・生活科の授業の充実を図った。 ○教育研究発表会を実施した ○基礎・基本を定着させるよう、学年に応じた家庭学習と自主学習を実施した ○学校図書司書や図書委員会と連携し、読み聞かせ等の取組を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ○多面的に考えたり議論したりする等道徳科の授業を実施した ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について、児童と保護者がともに学ぶ機会をもった ○いじめアンケートを学期に1回実施し、いじめの早期発見・未然防止・早期対応に努めた ○話し合い活動・体験活動を通して友達と学び合うことの楽しさを実感できる授業に取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツテストの課題を踏まえた体育の授業に取り組んだ ○「早寝・早起き・朝ごはん・挨拶」を推奨し、生活習慣の確立に努めた ○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力の育成を図った ○キッズ・サポートを実施した ○栄養教諭と連携した食育指導の充実を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクールを活用し、児童が地域の方々と交流する機会を設けた ○児童の学習や行事の様子をホームページや学校便り、校門掲示板等を活用し、随時最新の情報を紹介するよう努めた ○地域にある和歌山大学との交流・連携を進めた ○保幼小、小中の引き継ぎ等を行った
取組の成果と課題（評価結果）【C】	<ul style="list-style-type: none"> ☆全国学調、県学習到達度調査で正答率が全国や県平均を上回った ☆研究授業、研究協議会の実施により、教員の授業改善が進んだ ☆自主学習「希望のしるし」に積極的に取り組むよう努めた ▲基礎学力の定着に係る評価（保護者85%） ▲わかりやすい授業の評価（児童85%・保護者83%） 	<ul style="list-style-type: none"> ☆学校が楽しいと感じる(95%) ☆情報モラル等について、児童と保護者がともに学ぶ機会をもつことができた（6年生） ☆いじめアンケートを学期に1回実施し、いじめの早期発見・未然防止・早期解決に取り組むことができた ☆いじめの解消率※発生後3ヵ月以上の事案（100%） ▲いじめをなくす学校・学級づくりに係る取組の評価（73%） 	<ul style="list-style-type: none"> ▲スポーツテストの課題を踏まえた体育の授業への取り組みは不十分であった ☆早寝・早起き・朝ごはんの実行（早起き91%・朝ごはん94%） ☆挨拶ができる（児童80%） ▲安全確保・健康管理に係る評価（89%） ☆キッズ・サポートを実施することができた ☆栄養教諭と連携した食育指導を行うことができた（2年生） 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教育活動の伝達に係る評価（85%） ☆家庭・地域との連携・協力に係る評価（86%） ☆ホームページの更新を年間35回以上行うことができた ☆和歌山大学の教育実習や教育ボランティアを積極的に受け入れた ▲地域の方々との連携についてはさらに積極的に行う必要がある ▲小小の連携に弱さがあった
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着に向けて、eライブラリ等も活用し、家庭学習と自主学習の取組を更に推進する ○教員の授業力向上のため、児童理解を深め、児童が主体となる教科、総合・生活の授業をめざす ○次年度も研究の成果発表の場として、教育研究発表会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について、児童と保護者がともに学ぶ機会を複数学年に広げる ○4月にいじめ基本方針を保護者に周知するとともに、児童にはいじめの定義等を具体例を示して説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツテストの課題を踏まえた体育の授業への取組を、体育部が主体となって、全教員で共通理解し充実を図る ○危機管理マニュアルの作成や見直しを図るとともに、避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力の育成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの更新を年間70回以上行い、学校の取組や児童の様子などを積極的に公開する ○コミスク、共育を活用し、保護者や地域の方々に協力いただく教育活動を計画し、連携・協力を深める

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> ■本年度の全国学力・学習状況調査児童質問調査の結果から、ICT機器の活用については昨年度より改善されてはいるが、まだ課題があることが分かった。そのため、校内教職員研修の実施、市や県主催の研修に参加等、教職員のスキルと意識を向上させたい。その上で、授業で活用できるツールの精選、活用の効果的な場面の検討など、実際の授業で児童が活用する機会を増やし改善を図る。 ■子供が主体となる授業づくりにを研究主題に掲げているが、まだまだ弱さを感じる。そのため、子供をしっかりと見取り、積極的に子供達が話し合う場面を設定した授業づくりに取り組む。 ■児童・保護者の学校評価アンケート調査から、「あいさつすること」について課題があることが分かった。「あいさつ」に加え「ありがとう」の感謝、「ごいめんささい」の謝罪の3つについて、積極的に伝えられる子供の育成を重点目標の1つとして取り組みたい。 ■現在作成している「学校の決まり」について、子供達とともに見直し、守らせようとする決まりではなく、子供達が主体的に守らなければいけないと思える決まりへと改訂する。
--